



ἀγγελία

教養教育ニュースレター

ア

ン

ゲ

リ

ア

「アンゲリア」はギリシャ語で「ニュース・伝言・メッセージ」という意味です。

第5号

夏

国立大学法人岐阜大学
教養教育推進センター

No.5 June 2007



暗記より理解を、考える力を養おう。

教養教育推進センター長 中村 征夫

受験勉強の弊害か、入学後間も無い学生には「勉強とは暗記することだ。」と思っている者が多いようだ。しかし暗記は勉学の目的でも手段でもない。学生諸君に大学で身に付けて欲しいことは、何よりも“考える力”である。記憶力だけなら小さなパソコンの方が人間よりはるかに優れている。社会は諸君に記憶力を期待していない。新しいことを考える力、創造力を期待している。ではどうすればよいか。何事にも練習あるのみである。“考える力”を身につけるためには“考える練習”を何度も繰り返す以外にない。授業で習うことは、昔、誰かが正しく考えた末に得た結論である。諸君だって同じように正しく考えれば、同じ結論が得られるはずである。理解するとはそういう追体験をすることである。これを何度も繰り返すことによって“考える力”が身につく。暗記するな、理解せよ、記憶は理解について来る。

教育学部と教養教育

教養教育推進センター委員（教育学部） 弓削 繁



先日テレビをみていると、アメリカで 95 歳の女性が孫娘と一緒に大学を卒業したというニュースを伝えていました。更に大学院を目指しているとも聞き、学ぶということについていると考えさせられたことでした。

さて、教育学部の教養教育への関わりについて、まず数量面から説明しますと、今年度は全科目合わせて 79.5 コマを担当しています。これは常勤教員担当の総コマ数の 28.0%に当たります。なかでも人文科学は 31 コマで、常勤担当分の 62.5%、スポーツ・健康科学は 10 コマで、同じく 50%という高い割合を占めています。教育学部の学生定員は 1 学年 250 名、全学のちょうど 20%ですから、教育学部がいかにも多くのコマを担当しているかご理解いただけたらと思います。

ところで、近頃教育改革が声高に叫ばれ、教員養成への期待と要望がとみに高まってきていますが、周知のとおり教育学部ではいち早く学校現場を重視した ACT プランを策定、実施するとともに、6 年目研修・12 年目研修など学校教員研修にも力を注ぎ、また、インターネット大学院や専門職大学院の開設（準備）など大学院改革にも積極的に取り組んできております。そのようなわけで教育学部は日々何かと忙しいのですが、それにも関わらずこれだけ教養教育に深く関与するのは、何も外からの要請によるばかりではなく、学部も教員も教養教育の重要性をしっかりと認識しているからにほかなりません。特に教育学部の学生に限っていいますと、平成 10 年に教員免許法の一部が改正され、教科専門の必要最低単位数が 40 単位から 20 単位に減ってしまいました。それには勿論生徒や学校を取り巻く諸事情が投影しているわけですが、ただ殆ど選択の余地のないこれらの科目だけで教師に必要な専門的力が身につくものか、いささか心配なところですが、その点、幅広い知識や考え方や人としての生き方などを学ぶ教養教育は教育学部の学生にとって益々重要になってきています。

思うに、教養教育のなかにはすぐに理解出来るものもあれば、ある程度専門の世界を覗いた後でなければ身につかないものもあるでしょう。また、長い人生経験を通してやっと腑に落ちるといったものもあるはずですが、学生諸君には一見つまらなく感じられる講義にも辛抱強く付き合ってみることをお勧めします。年齢を重ねにつれ、思わぬ教養が意味を持つてくることもあれば、改めて学び直したいという気持ちが生れてくることもあるのです。

「教養」を学ぶ

門脇章夫

農学研究科生物資源利用学専攻M2



大学を卒業することは難しくない。無理なく単位を取得できる科目を選択し、所定の単位数を揃えさえすれば、卒業することはできる。そしてそこには、教養科目による単位が含まれている。

学部、学科を選んで入学してきている以上、その専門科目には学生の多くが真剣に取り組むだろう。しかし、教養科目はどうか。善き社会人となるため、多様な知識を身につけ、広い視野を持ち、豊かな人間性を養うための教養教育。その必要性は確かに分かるが、長い受験勉強から解放され、それまでより遙かに自由な身となった大学生のどれ程がその教養教育の意義を考え学んでいるだろうか。

私自身、学部 1 年当時に教養科目で学んだ全てのことを覚えている訳ではない。だが、いくつかの印象的であった科目は、大学院生となった今も確かに自分の内に残り、自らを構成する力となっている。

繰り返すが、大学を卒業することは難しくない。しかしそうであるからこそ、教養科目を受け身ではなく自ら学ぼうとする姿勢が必要であると言えるだろう。ただ卒業するためだけではなく、そこで意味のある“貴重な何か”を得るために。

教養教育 授業訪問シリーズ No.5

合意形成の理念と技術

六郷恵哲 教授 水谷香織 講師



オレンジの小話を知っていますか？こんな問いかけから授業は始まりました。難しそうな授業名とは少し違った切り出しでした。

オレンジが1個ありました。ある姉妹が2人ともそのオレンジが欲しいと言いました。あなたがお母さんなら、なんと言いますか？

しかし、このシンプルな小話に答えることを糸口に、背景となる合意形成の理念を学び、合意にいたるまでのコミュニケーション技法を身につけることが授業の到達目標となる。授業回数 8 回の総合科目での 1 単位科目ですが、授業の進行は、与えられた命題をグループに分かれて議論・発表・批評し、最後には個々に今日の授業の「ふりかえりシート」を作成する。またあるときには、対立した利害関係者の合意形成までのシナリオをグループで作成し、それを皆の前で演じ批評をもらうという「ロールプレイ型」授業も体験できる。まさに参加型の授業で、適度な緊張感の中でコミュニケーション技術と同時にその理念も学んでゆきます。なんといっても圧巻なのが、その授業の成績評価の方法までもが、受講生と担当教員で合意形成し決めてゆくことです。担当教員は工学部の六郷先生ですが、実際の授業の進行をファシリテイトを専門としておられる水谷先生によって展開されるのも一味違った授業の一因となっています。

(全学共通教育事務室・山口利哉)

動き出した学生支援室

(全学共通教育講義棟 1 階にあります)

4 月 11 日から学習支援室を開設しています。

「何でも相談室」として、学生相談員が、学習、履修関係などを中心に対応します。皆さんの先輩が気楽に相談にのりますので、是非足を運んでください。

月・火曜日 16:00～18:00

水曜日 13:00～17:00



履修相談にアドバイス



ヒアリング相談にきました

また「英語学習相談室」は、英語担当教員が学習全般、英検等の資格試験及び留学等について相談にのっています。

前学期 火曜日 12:00～13:00

後学期 月曜日 12:00～13:00



相談員打ち合せ会

まだ、駆け出しの相談室ですが、センターが設置した意見箱もまもなく 1 年を迎え、ここにきてようやく投書件数も増えてきました。

相談室と意見箱についてもどうぞよろしくお願ひします。

(昨年 6 月 22 日に設置した意見箱への投書件数も 14 件になりました。)

教養教育 授業訪問シリーズ No.6

ドイツ語 I (抽出クラス)

フォン・フラクシュタイン, アレクサンドラ 准教授



『ドイツ語入門』だから文法の基礎が楽しく学べる!』と言っても、あまり興味を感じませんよね。でも、未修外国語は結構楽しいですよ。それは新鮮な気持ちで、ちょっと違う考え方や文化に触れることができるから。そして言語とは、それを使う人たちの意識の表れだから。

授業では、説明を少な目に、その代わり練習問題を多目にして生きたドイツ語を身につけることを目指します。心を込めてつくった「手打ち問題」が自慢で、個人的な指導が特長です。

(フォン・フラクシュタイン, アレクサンドラ 准教授)

FD 研究会開催のお知らせ

日時：9/27 (木)～9/28 (金)

場所：「かんぼの宿」(羽島市)

テーマ

「学部の考える教養教育

－基本的な考え方と具体的な課題－

基調討論

第 1 部：学部&センターからの報告

第 2 部：部会からの報告

個別テーマ討論

リメディアル教育のあり方

時間をかけた自由な討論と情報の共有化

編集後記

平成 19 年度教養教育推進センターのニュースレター「アンゲリア」第一号、通算第五号を発行させていただきました。今年度はセンター長が交代して新しい体制で進んでいくこととなり、その新センター長の抱負を冒頭に掲げさせてもらいました。このニュースレターはこれまで、センターからのニュースの他に、各学部から教養教育にかかわる考え方を自由に述べてもらったり、教養の授業の紹介や学生の感想・激励などを特集してきました。今年度はそれを踏まえて、これからもう少し教員や学生の自由な意見も採り上げていきたいと考えています。ぜひさまざまな意見をお寄せ下さい。

編集責任者 教養教育推進 副センター 小澤克彦